

透析カンファレンスにおける薬剤師からの情報提供内容の評価

○大野 能之<sup>1</sup>, 金平 麻珠子<sup>1</sup>, 花房 規男<sup>2</sup>, 野入 英世<sup>2</sup>, 中島 克佳<sup>1</sup>,  
藤田 敏郎<sup>2</sup>, 鈴木 洋史<sup>1</sup>(<sup>1</sup>東京大病院薬剤部, <sup>2</sup>東京大病院血液浄化療法部)

【背景・目的】東京大学医学部附属病院では、血液浄化療法を要する入院患者を対象とした透析カンファレンスを週 1 回行っている。透析カンファレンスには、血液浄化療法室のスタッフ(医師・臨床工学士・看護師)、対象患者の受持ち医師、栄養士、薬剤師が参加しており、受持ち医師からの症例紹介の後、血液浄化療法に関連する治療方針についての協議が行われる。そのなかで、薬剤師は主として薬物療法に関連した情報提供を行っている。そこで、本研究では、薬剤師からの情報提供内容について調査し、透析カンファレンスにおける薬剤師の役割を考察することを目的とした。

【方法】平成 20 年 5 月から 10 月までの薬剤師が参加したカンファレンス(全 21 回)における、薬剤師からの情報提供内容を調査した。情報提供の形式は、積極的に行った情報提供を能動的情報提供、質問に対する回答を受動的情報提供とした。情報提供の内容は、薬物療法への提言、一般的情報、透析患者への投与方法、副作用、相互作用の 5 項目に分類した。また、能動的情報提供に関しては患者の治療への受け入れ状況を調査した。

【結果・考察】薬剤師からの情報提供件数は約 80 件であり、約 3 割が能動的情報提供、約 7 割が受動的情報提供であった。情報提供の内容は、透析患者への投与方法と一般的情報が特に多く、次いで副作用、相互作用、薬物療法への提言の順であった。一般的情報提供の内容は、薬剤の効能効果、用法用量、薬物動態、採用の有無、組成など広範であった。また、能動的情報提供ではほとんどがその後の治療に受け入れられていた。薬剤師が透析カンファレンスに参加して情報提供を行うことは、透析患者の適正な薬物療法のために重要であると考えられた。